

令和5年度 浜松市立横山小学校 学校評価報告書

1 自己評価

①【知】「自分から 学び合う子」主体的に学びに向かう力の育成

<成果>

- 個々の子供の興味・関心や学習の実態に応じた支援を行うことで、前向きに学習を進めるようになってきた。
- タブレット PC を活用した朝学習などを行うことで、個々の進度に応じた基礎・基本を補充することができた。
- 話し合いを補助するワークシートや板書などに加えて、タブレット PC を活用し、互いの考えを見える化することで、自然と子供たちの意見交換につなげることができた。
- 身に付けたい力を子供と共有して授業を進めることで、振り返りの視点の質が高まった。
- 振り返りや学習の記録にタブレット PC を活用することで、学習の足跡が蓄積され、わかった・できたを実感することができた。

<課題と方策>

- 授業中の子供の発言が対教師に偏り、子供対子供で学び合う話し合いが進みにくい。
→学習集団の人数に合わせて、より効果的な話し合い・学び合いができるような手立てを工夫する。
- 学習の積み上げを大切にする気持ちをいっそう育て、それを次の学びにつなげたい。
→学習の過程や単元末において、授業における見方・考え方や発言を称揚したり、子供に価値付けたりする。

②【徳】「みんな仲よく 認め合う子」自他のよさに気付くことができる力の育成

<成果>

- 学級などで「よいこと見つけ」をしたり、全校道徳などで自分の思いを伝え合ったりすることで、自分や友達のよい所を見付け、お互いを大切にし認め合うことができた。
- たつ子ショート集会を行うことで、互いのよさを理解することができた。
- 地域の人を紹介する場を設けたり、よい挨拶ができている子を積極的にほめたりすることで、元気にあいさつする子が増えてきた。
- 地域を知り、地域に学ぶ活動を多く設定することで、ふるさとを大切にする心情が高まった。

<課題と方策>

- 正しく温かい言葉遣いができていない子が多い。
→正しく温かい言葉を使うことの大切さを考える場を設定する。
- 地域の皆さんへのあいさつは、よくなってきているが充分ではない。
→あいさつの意味・意義の指導、あいさつの称揚を行う。
- 子供たちが、地域の方にあいさつする機会が少ない。
→子供たちが小さな親切、あいさつ運動に取り組む場を設定する。

③【体】「力いっぱい 高め合う子」 目標に向かってねばり強く取り組む力の育成

<成果>

- 指導の工夫により、目標が達成できるように、運動に進んで取り組む子が増えた。
- 外部講師を招き、一緒に活動することで、目標に向かう意欲が高まった。
- 補助運動を取り入れたり、伸びを称揚したりすることで、体力テストの成績が上がった。
- 自分の健康課題を意識する子が増え、改善のために努力しようとする姿が見られるようになった。
- 栄養教諭の食育指導や、全校給食での教師の声かけにより、バランスよく食べることを意識する子が増えた。

<課題と方策>

- 粘り強く活動に取り組むことについて、児童と保護者で評価の違いが大きかった。意欲を継続させるための働きかけが必要である。
→保護者の方と一緒に取り組む活動を設定したり、こつこつ努力している子を称揚したりする。
- 進んで体力の向上に取り組めない子がいた。
→ワークシートや掲示等で努力の経過が見える工夫を効果的に行う。
- 自分の健康課題の改善までには至っていない。
→元気チェックなどでの良い表れが、良好な健康状態につながっていることを実感させ、良い生活習慣作りを促したり、子供たちの実態に応じて、タイムリーな課題について、ハッピー健康などの保健指導を即時行ったりする。

④【総括】

<成果>

- 1年間を総じて、子供たちは、目標に向かって様々な活動に取り組み、成長を目指してがんばっている様子が見られた。
- いじめ防止基本方針や学校の決まりについて、児童、保護者、学校運営協議会に説明し、意見を求めたり、校内で見直したりしながら、いじめ防止の取組みを進めることで、どの子ども、心と体が健康で、楽しく学校に通うことができた。

<課題と方策>

- キャリア教育の評価が低い。
→たつ子わくわく学習などにおいてキャリア教育の目標を意識できるように工夫するとともに、キャリアパスポートを持ち帰り、保護者の方に積み上げに触れてもらうようにする。
- 子供と大人の評価に大きな違いが見られた。
→「たより」「ブログ」「参観会」「懇談会」「さくら連絡網」などで、ねらい達成のための取組みや成果について伝えたり授業への参画を促したりして、教育活動の「見える化」をさらに進める。

2 学校関係者評価

2月6日(火)に開催した学校運営協議会において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告。委員からは以下のような意見があった。

- ・いじめ防止等について学校は丁寧に取り組んでくれている。来年度も引き続き指導してほしい。
- ・子供たちとしても、親としても個々それぞれの考えがあつての評価である。集計結果を参考に来年の指導に活かしてほしいと思う。
- ・子供たちは学校で頑張っているときの評価を、親たちは子供たちが家に帰ってほっとしたところの評価をと、双方の結果に違いが出るのは仕方のないことだと思う。
- ・杉の子の日の挨拶もだいぶやってくれるようになった。地域と接する機会を増やせば、もっと評価もよくなっていくと思う。ただ、運営協議会委員へのアンケートとしては、子供たちの学習や生活を見ているわけではないため大変難しかった。
- ・アンケート評価の数字を鵜呑みにしないのが賢明である。親と子の評価の違いがあつて当然であり、曖昧でもある。今後の指導の参考にする程度とし、子供たちの活躍を応援していけばいいと思う。
- ・職員回答のアンケートについて、正直な評価であると思う。校長先生、教頭先生の考えが、他の職員の方にどのくらい反映されているかという、逆の見方もできるのではないだろうか。
- ・普段子供たちと接する機会がないため、学校の行事に呼んでいただき観覧できてよかった。地域と職員、子供たちが一体となって活動している姿は、見ていてとても気持ちがよかった。
- ・息子も小規模校に通っていた。当時も子供たちの共同生活や学校運営を鑑み、周りの学校との統合の話も多々あつたが、実現することなく卒業し、成人となり元気に生活している。今でも地域に子供を育てていただいたと感謝しているし、子供自身も感じていると思う。横山小学校の子供たちも同じ境遇にあるが、保護者の方も不安になる必要はない。今後も小学校と子供たちを応援して欲しい。
- ・職員の減少にもかかわらず、少ないなりに、新しい方向性を見つけ努力されていることに感動した。

3 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

- ・いじめ防止基本方針について、保護者、学校運営協議会に説明し、意見を求めたり、校内で見直したりしながら、いじめ防止の取組みを引き続き進める。
- ・横山小の教育活動について、保護者、地域の皆さんに伝え、さらに理解していただけるよう、学校だよりや学校ウェブサイト等を使って、知らせていきたい。